セロリ

西　真司

水の管理徹底して

セリ科の１，２年生草本で，原産地はヨーロッパからアジア西部，インド周辺とされています。シャキシャキとした歯ごたえと香りが特徴ですが，古代ギリシャ，ローマでは強壮，利尿，整腸剤として利用されました。

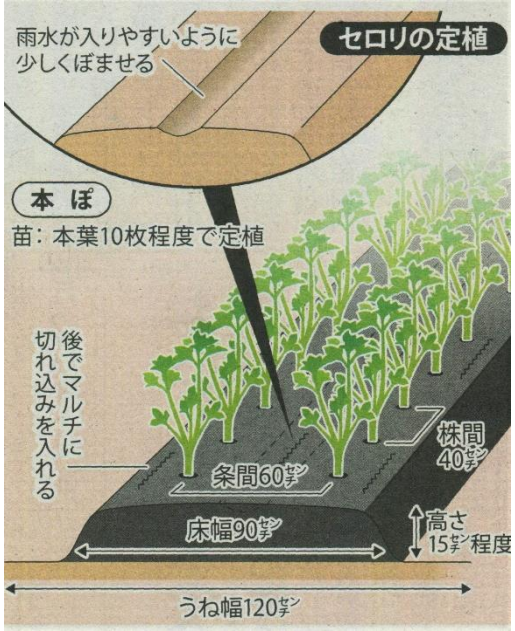
ビタミンＢ群，鉄分，食物繊維が多く，葉の部分にはカロチン（ビタミンＡ）が茎の２倍も含まれているので，丸ごと食べるのがおすすめです。

今回，夏まき冬どりの露地栽培を紹介します。播種は６月で，種子は本ぽ１アールに２ミリリットル必要です。育苗箱に市販培土を５センチの厚さに敷き詰め，種をばらまきます。覆土はせずにたっぷりかん水した後，不織布などで覆います。発芽後，苗間隔が２センチ程度になるように間引きます。乾燥に弱いので，本葉が３～４枚になるまでは水を切らさないようにします。

本葉３枚以上で１２センチのポリポットに鉢上げします。高温期の育苗になるので，涼しく風通しの良い場所で育てます。土の乾燥や湿りすぎに弱いので，水の管理を徹底しましょう。

８月中旬～９月頃の本葉１０枚程度で定植します。１週間前までに１平方メートルあたり堆肥２キロ，苦土石灰１２０グラム，化学肥料（窒素，リン酸，カリ各１５％の場合）を１５０グラム程度施し，耕転します。うね幅１２０センチ，床幅９０センチ，高さ１５センチ程度のうねを作ります。地温上昇抑制や雑草対策のために白を表にして白黒ダブルフィルムで被覆しますが，かん水した水が浸入できるように工夫します。株間４０センチ，条間６０センチ程度の２条植えで，深植えにならないように定植します。他の野菜よりも頻繁にかん水を行いますが，肥料切れを起こすと株が大きく育ちません。そのため追肥はおおよそ３０日間隔で化学肥料６０グラムをうね間か通路に施用します。また定植後３５日程度で脇芽をとり，株張りをよくします。

定植後９０日程度たったら，葉を１枚ずつか株ごと収穫できます。収穫が遅れると「す」が入りやすいので注意します。なお降霜期には不織布などで覆って霜害を防ぎます。



（鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部野菜研究室研究専門員）

平成２８年６月９日（木）／南日本新聞